非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014
郵便振替口座 00760-0-15689　会報込年会費 3000 円

2015 年 5 月 20 日　月刊第 202 号　発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1 面　NPT ニューヨーク平和行動　井上英夫
2 面　―平和と人権の旅―
3 面　NPT ニューヨーク行動の報告　近松美喜子
4 面　世界中の人々と心ひとつに　澤田慎子
写真で見る NPT ニューヨーク行動　中内晃子
5 面　辺野古・高江通信①　五十嵐正博
はだしのゲンをひろめる会総会
会員エッセイ
今・・・・　雀松捷二
6 面　戦争体験者から聞いたこと　北野春男
花鳥風月と私　川本浩平
7 面　詩人会議「独標」より
緑色の郵便受け　石川あい
編集室より
8 面　被爆者が描いた体験画展　中田喜重
絵手紙コーナー　近松美喜子
非核平和・行事予定

NPT・ニューヨーク平和行動

平和と人権の旅

代表世話人　井上英夫

今年、広島・長崎被爆七〇年を迎えます。そして、福島原発爆発から四年がたちました。

日本も世界も大きな転換点を迎えています。とりわけ、集団的自衛権行使、そして憲法改悪により軍事国家への道を突き進む安倍政権下の日本では、第二次大戦後の一九五〇年代の朝鮮戦争・再軍備時代に匹敵するような危機的状態を迎えていると言えるでしょう。

その意味で、今回のニューヨーク平和行動の意味は非常におおきなものがありました。

写真①　通り過ぎる人にも、めげずに署名を呼び掛ける

被爆七〇年の四月二七日から開始された国連のＮＰＴ（核不拡散条約）再検討会議にむけた平和行動に非核の政府を求める石川の会、そして石川県原水協代表団として参加してきました。

石川の皆さんの平和に対する熱い思いを背に、ＮＹを中心とする、署名行動、パレード、各種集会参加等活動してきました。皆さんのカンパをはじめとするご協力・ご支援に感謝いたします。

ニューヨーク平和行動の目的

ＮＰＴ・核不拡散条約(Treaty on

写真②　横断幕を掲げて和服で行進した石川県代表団

花鳥風月

統一地方選と連休が終わり、政局は安保法制をめぐり一気に緊迫してきた。与党は集団的自衛権行使容認を含む一〇本を一本化し、「平和安全」という語を冠して国民をたぶらかそうとしている▼同じことが「大阪都」構想にもいえるが、経産省「有識者会議」の発電コスト試算にも呆れ果てる。三〇年時点「原発二〇％超」は、老朽原発を六〇年間も運転させ、新規を見込まないとあり得ない。「原発コストは安価」はたぶらかしだ。廃炉・縮小の視点が全くなく、動かすという固定観念で思考停止している▼核燃料サイクルと廃棄物処理の破綻、放射性鉱物の枯渇に関わりなく、人類は一刻も早く核と決別せねばならぬ。「電気は足りない」「停電する」「接続できない」に騙されてはならぬ。そういえば「平和利用」「原子力発電所」という言葉自体がたぶらかしだった。核と原子力は同じものだから〝核発電所〟でいいのだ。ネットではそれを原子力発電所と勝手に変換しやがる▼国会では格差「違憲状態」かつ歪んだ選挙制度で選出された議員の多数派が違憲の戦争立法を企てている。本当にデタラメだ。来年の参院選が関ヶ原とも言われるが、たぶらかしで〝壊憲〟されてはかなわない。（中）

the Non-Proliferation of Nuclear Weapons)とは、米国、ロシア、英国、フランス、中国の五カ国だけに核兵器保有を認め、それ以外の国への核拡散を防ぐことを目指した条約です。七〇年に発効。約一九〇カ国が加盟しています。事実上の核保有国であるインドやパキスタン、イスラエルは未加盟で、北朝鮮は一方的に脱退を宣言しました。五年ごとに運用状況を確認する再検討会議があり、前回二〇一〇年は核廃絶に向けた行動計画を盛り込んだ最終文書を、全会一致で採択しました。

二〇一〇年の行動にも参加しました。原水協等主催の国際平和集会に出席した潘基文国連事務総長が演説し、核不拡散、核兵器削減から一歩を進め、「核廃絶」を明言したこと、その演説を世界の人々と聞き、震えるほど感動したこと、さらに、被爆国日本の平和運動への各国の期待が想像以上に大きかったことに身の引き締まる思いがしたことなどを思い出しながらの一三時間のフライトでした。

今回、第九回再検討会議の目的は、二〇一〇年の核廃絶に向けた合意の具体化と実行に踏みだすことです。したがって、NY平和行動の目的は世界の人々と連帯し、法的拘束力を持つ核廃絶措置すなわち核兵器全面禁止・廃絶条約のための交渉を開始するよう、国連及び各国政府にプレッシャーをかけることでした。

署名行動と平和パレード

日本の代表団は、多様な活動を展開しました。石川の皆さんと一緒に行動できたのは、セントラル・パークでの署名行動と平和パレードの参加でした。

四月二六日午前中、NYは快晴でした。新緑と桜、アメリカはなみずき(何故かdog woodというそうです)、豆梨の花等咲乱れるセントラルパーク入口で署名行動を展開しました。さすが、活動で鍛えられている皆さん、なかなか上手で、前回を上回る数の署名が得られました。(写真①)

午後から、NY国連前のハマーショルド広場に向けてパレードです。石川の代表団も横断幕を掲げ、和服で行進しました。(写真②)

前回に比べ日本代表団は和服そして仮装や横断幕等楽しく工夫を凝らしているのが目立ちました。

パレードには、一万人が参加したそうですが、日本代表団の活躍が目立ちました。行進は二時間以上、集会を含めると四時間近い強行軍でしたが、乳母車から、高齢の方まで歩き通し、アメリカはもちろんフランス、韓国、中国等各国の人々と交流できました。行進は、歌を歌い、楽器もならし、シュプレヒコールもあり、にぎやかなものでしたが、泣く子も黙るNY市警の「警護」(監視)のもとに整然と行われました。ここでも五年前と違うのは、銃を持ち、手錠を二つぶら下げた警察官が意外と友好的な笑顔を投げかけてくれたことでした。(写真③)

写真③　折り鶴を喜ぶニューヨーク市警察のお巡りさん

行進の最終地点は、国連前のハマーショルド広場でした。ここで、国連代表に日本からの六三三万の署名を積み上げ届けました。(写真④)。

日本の運動が、世界の平和運動に大きな貢献をしているという実感が持てた瞬間でした。ただ、残念なのは、年々パレード参加者が減っていることです。あらためて日本からの呼びかけも強める必要があるでしょう。

写真④　国連代表に提出された６３３万筆の核廃絶アピール署名

NPT再検討会議と日本政府

もう一つ残念なのは、日本政府の態度です。四月二八日には、岸田外務大臣が国連本部で会議に出席し演説し、平和首長会議主催のヒロシマ・ナガサキアピール集会にも出席しました。被爆地広島出身の外務大臣として、被爆地の思いを胸に「核兵器のない世界」に向けた取組を前進させる決意を述べたそうです。しかし、その提案は、「核戦力の透明

性の確保」というような抽象的なもので、何より、核兵器全面禁止条約を含む法的枠組みの必要性については言及すらしていません。

四月二九日には、安倍首相は、日本の首相として初めてアメリカ合衆国連邦議会の上下両院合同会議で演説を行っています。国連よりも、「同盟国」アメリカに頭を下げ、こびへつらいに行ったということでしょう。

情けない、ほこりも何もない。内では、侵略につながる集団的自衛権行使、憲法改悪をねらい、外では「平和」、第二次大戦に対する「痛切な反省」と言葉を使い分ける「二枚舌」内閣であることがますます明白になりました。

安倍首相の外向けの演説の内容は、憲法前文の趣旨に外れるものではありません。だとするなら、なぜ改憲しなければならないのか。全く解せません。しかし、安倍内閣の「うち向け」が本質であることは、NYで外から見てはっきりわかりました。

平和の運動を一層強めてこの安倍内閣を打破しましょう。

憲法九七条と人権

平和行動で考え続けたのは、平和と人権のことでした。平和でなければ人権が保障されない。すべての人にあまねく人権が保障されてこそ真の平和である。これこそ積極的平和のほんとうの意味なのです。

人権保障の運動は、まさに平和運動です。私達は、国連NGO日本高齢期運動サポートセンターとして国連に高齢者人権条約制定の要請にも行きました。また、アメリカ独立宣言の起草されたフィラデルフィアの独立記念館そして南北戦争の最激戦地ゲティスバーグで、奴隷解放をしたリンカーン大統領の有名な「人民の、人民による、人民のための政府」演説の場所にも立ちました。そして、九・一一メモリアルパークにも。

痛感したのは、戦争そして核兵器廃絶の途も個人から国家までの「非暴力」の徹底しかないということでした。そして、憲法の保障する人権は、「人類の多年にわたる自由獲得の努力（struggle―闘い）の成果」であるとする、憲法九七条の歴史観のすごさと大切さでした。

自民党憲法草案では、全文削除となっていることを改めて想起せずにはいられません。

NY平和行動を契機に「平和と人権のための闘い」を一層強力に続けましょう。

NPTニューヨーク行動に参加してきました

近松美喜子

署名行動でニューヨークの活動が始まりました。ニュークリア　ウェポンフリー　プリーズサイン。ありったけの単語を並べての署名行動、会話に自信がないので小さい声になるが、日本からもって行った折り鶴を手渡しながらサインを求めるとにっこりと応じてもらえました。公園の入り口で仕事をしているらしい黒人青年、署名を求めると「戦争を終わらせた・・・」らしきことを言って、サインを拒否、井上英夫先生がしばらく対話すると首をかしげながらもサインしてくれる。アメリカの現実の一面か。一時間弱の行動で私は一二名のサインを集め一日目の署名行動を終えました。

石川県代表団　右から３人目が筆者

大急ぎで昼食をとり、「核兵器全面禁止のアピール」署名を国連・NPT代表に手渡すためのパレードの出発地ユニオンスクエアへ電車で移動（電車チケットを買うのも一苦労、なにせ、全部英語で書いてある！？同行の井上先生や中内さん、澤田さんのお世話になったのは言うまでもない）。

核兵器廃絶の願いを全身で表した思い思いの姿、特に日本をアピールするユカタや羽織袴などの和装でハマーショルド広場へ二時間近く行進をする。世界中から一万人を越えるパレードとなりました。

歩きながら核兵器なくせの思い一つで歌声を合わせる〝WE SHALL OVERCOME〟感動的な行進でした。

広場に山積みされた署名は六三三万六二〇五人分、その中に今回私が新たに持っていった二一七筆、皆さんの思いも直接届けたぞ・・と言うなんともいえない感動。署名数が大きく書かれた横断幕をもつ署名推進の共同代表の中には新日本婦人の会の笠井貴美代会長らとともに石川県宗教者平和協議会の川崎俊栄会長の姿もあり、とても誇らしい気持ちになりました。

「市民社会の一人一人の行動が核軍縮を可能にする、届けられた署名に感謝する」とアンゲラ・ケイン国連上級代表とタウス・ヘルーキＮＰＴ再検討会議議長。

二日目は女性の集い、うたごえコンサート、国際シンポジウム、どれも感動的で、核兵器のない世界を求める大きな流れの中にいることが感動をもって実感することが出来ました。特に国際シンポジウムでパネリストのお一人、元軍縮問題担当国連上級代表のセルジオ・ドウアルテさんが「どうしたら核兵器をなくすことが出来る？」という会場からの質問に答えて署名運動が国際世論を高める上で重要な役割を果たしているとしたうえで、「核兵器廃絶を主張する議員をたくさん議会に送ってください」と。

核兵器廃絶と、安倍政権が進めている「集団的自衛権行使」の準備、平和憲法への逆行をゆるさない運動を強めなければならないことを感じて帰ってきました。

（金沢医療生活協同組合理事）

◎近松さんにはニューヨーク行動を題材にした絵手紙も寄稿していただきました（八面掲載）。

世界中の人々と心ひとつに

澤田慎子

四月二五日～三〇日まで、二〇一五年ＮＰＴ再検討会議ニューヨーク行動、石川県代表団の一員として参加させて頂きました。

ＮＹ到着翌日にはコロンバスサークルで署名行動を行い、世界中から集まった核兵器廃絶を願う人々と心ひとつに、ユニオンスクエアから国連本部のあるハマーショルド広場までパレードを行いました。

そして今回、初日のＮＰＴ再検討会議の傍聴が石川からは私ひとり受理されており、英会話の苦手な私は国連本部の中で迷いながらもどうにか傍聴席まで辿り着くことが出来ました。

海外の代表者が「The Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident」と何度も言っていたのがとても印象的でした。

とにかく充実した四日間。ニューヨーク行動に送り出してくれた職場のみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。

（健生クリニック介護相談センター・ケアマネージャー）

ニューヨークで署名活動も行いました

写真でみる ニューヨーク行動

中内晃子

最初のＮＹ行動が街頭でのアピール署名

四月二六日、ＮＹでの最初の行動。コロンバスサークルでの署名行動（セントラルパークの入り口付近）。つたない英語での説明でしたが、英語版の署名用紙が力になってくれました。署名してくれた方には、日本からのお土産（手作り和小物など）をプレゼントしました。

パレード出発前の集会で記念撮影

（帽子をかぶっている人が笠井さん）

四月二六日、パレード出発前の集会が行われていたユニオンスクエア。

署名行動のあと、電車に乗って、そして歩いて到着したユニオンスクエア。人人人…と思ったら、知っている顔が！新日本婦人の会会長の笠井さんでした。

写真は一緒に行動していた石川からのメンバーと。みな新婦人会員です。

（新日本婦人の会金沢支部常任理事）

非核・平和のひろば

◆辺野古・高江通信①◆

「反対すること」と「止めること」そして東村高江の現在

五十嵐正博

四月初旬、Aさんとは一年ぶりの再会でした。Aさんは、高江のN4ゲート前に座っていました。定年まで数年を残して退職し、名護に移り住んだとのこと。月曜日から金曜日は高江、週末は辺野古で座り込み。ある人の言葉がそうさせたそうです。君は基地建設に「反対したいのか？」それとも「止めたいのか？」。定年を待っていたら基地はできてしまう、現場で建設を止められなかったことを悔いることになる。現場で「止めよう」。淡々と語るAさんの話に、ぼくはただただうなずくだけでした。

昨年の夏、高江のヘリパッド建設反対運動に個人の立場で参加している支援者らによって「高江連絡会」が発足しました。その「高江連絡会」の発起人の一人は、約十年前に、五〇歳で退職し、関東地方から辺野古に移り住んだそうです。いつもAさんたちとN4ゲート前に座っています。

東村では、四月二六日、二〇年ぶりに村長選挙が行われました。結果は残念ながら七四二票対六〇九票で現職が勝ちましたが、反基地を訴えて立候補された當山全伸（とやま・まさのぶ）さんの勇気と、伊佐真次さんを初め、當山さんを応援した人たちの熱は素晴らしものでした。當山さんともお会いしました。選挙ビラ配りもしました。東村の外からの応援も當山陣営の皆さんを大いに勇気づけていたと思います。四年後は、きっと勝利するでしょう。

辺野古でも、高江でも、いつも沖縄の皆さんの沖縄（琉球）の歴史・文化などについての知識の豊富さに圧倒されます。たとえば、辺野古キャンプシュワブ前で、名護市議が滔々と沖縄（琉球）の苦難の歴史を話されます。

速報　琉球新報　THE RYUKYU SHIMPO　4月28日（火）

新たな「屈辱」阻止

新基地撤回求め結集　県民広場

（田丸正幸さん提供）

翁長沖縄県知事と安倍首相の会談が行われたのは、私がまだ沖縄にいるときでした。沖縄では、最近「沖縄と本土」ではなく「沖縄（琉球）と日本」という言い方がされるようになったそうです。その意味を「本土（日本）」の私たちは今こそしっかり受け止めなければならないでしょう。

◆はだしのゲンをひろめる会◆

ニューヨークでの被爆証言にて「はだしのゲン」をひろめる

NPO法人はだしのゲンをひろめる会の第三回総会が五月一〇日、近江町交流プラザで開かれた。

最初に浅妻南海江理事長があいさつで、四月二七日から五月二二日まで国連本部でNPT再検討会議が開かれている。日本被団協が国連本部で行った原爆展に参加し、被爆証言を聞いたアメリカの九歳の少年が小学校でその報告を準備したところ、校長が「衝撃的な写真を見せている」と停止されたという話を紹介。アメリカの世論調査では「原爆投下は正しかった」という回答が六一％もあり、被爆の実態が十分伝えられていない。アメリカの若者たちに「ゲン」を普及することに大いに力を注ぎたい、と話された。

また被団協代表団の一員としてNPT・ニューヨーク行動に参加した西本多美子さん（石川県原爆被災者友の会事務局長）が国連本部の原爆展会場や高校等での被爆証言のなかで「はだしのゲン」、「Barefoot Gen」を紹介し、同書の寄贈に結びついたことも報告された。

討論では、「Barefoot Gen」や同紙芝居CDを普及するため、外国人向けに英語版リーフレットを作成すること、国際交流協会やジャパンテント（留学生を招いた国際交流イベント）、留学生寮に協力依頼するなどの多様なアイデアが出された。（神田順一）

非核石川の会　リレーエッセイ

今・・・

雀松捷二

北陸中日新聞、戦後七〇年『平和の俳句』四月二日掲載句〝身障の我らまたもや非国民〟選者の金子兜太氏は「痛憤を覚える。非国民扱いする人間こそ問題なのだ。平和などない。」と寸評しています。

私自身の老後の生活のことやまわりを見渡すと生活保護世帯の増加、老老介護や親の介護のため結婚が出来ず、仕事をやめてしまう息子や娘がい

ます。彼・彼女たちの将来はどうなるのでしょうか。

ひとり親世帯の子どもの貧困率の増加は無年金や無保険、教育格差などの貧困の連鎖、そして貧困の世襲化です。将来が不安でたまりません。年金制度も公務員や大企業に厚く、国民年金だけでは最低限の生活もできません。矛盾した制度です。

非正規労働なども同様です。連合などの組織は正規社員の労働組合で、ここでも身分の格差問題に立ち向かって行かなければ若者たちの将来に希望を持てません。

核兵器廃絶、核開発の平和的利用などというこじつけの原子力発電は地球上のあらゆる生命と共存不可能です。脱原発こそいのちにとって正義ではないでしょうか。何故！こんな簡単なことが理解出来ないのでしょうか。

ヒロシマ・ナガサキ・オキナワ・フクシマの根っ子は一つです。つながっています。

大江健三郎氏の『ヒロシマノート』『沖縄ノート』で現実を知りました。

二〇〇九年オバマ大統領のプラハ演説に大きな感銘を受けましたが、簡単でないことも認識しました。

唯一の被爆国、そして、『戦争をしない国』をアジア・世界に宣言した平和憲法を持つ日本国民だからこそ、訴え続けていけます。社会や政治情勢へのあきらめは、格差社会を強めます。民主制度の根幹である選挙、投票の行動が重要でしょう。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

作・雀松捷二

戦争体験者（父）から聞いたこと

北野春男

第二次世界大戦で日本がいったん滅びてから七〇年の節目の年。小生は昭和一九年三月に中国の北京市で生まれたことになっています。父親が外務省領事館警察官だったからです。彼が内地へ引き揚げてきてからわたくしに、晩酌の話し相手として何回も話してくれたことを記録に留めておこうと思いました。郷里小浜（おばま）市に住んでいる妹から「父ちゃんの二五回忌せんならんよ」と言ってきました。小生も七二歳の老境に入っています。ぼけないうちに拙文を。

父親は、小浜生まれで都会に出ようと神奈川県警の巡査に応募。二・二六事件の時、葉山の御用邸の警備につかされたことがあったと言っていました。現在の天皇がまだ幼くて「兵隊ちゃん、兵隊ちゃん」と声をかけてきたとか。警察官と兵士の区別もまだ分からない年齢だったのでしょう。口をきいてはいけないと命令されていたとか。

ここで外務省領事官警察官の募集にとびついたんですね。外地へ、満州へという時代背景ですから、たぶん邦人保護を大義名分にした特務機関だったのではなかったのか、と思われます。

その一端を。後に戦後外務大臣になった重光葵という人が当時北京市領事館の公使だったそうです。重光公使が北京市を移動するとき、側車付きのオートバイで先導したといっていました。ある事件で爆弾を投げつけられて負傷した体験を持つ公使の車は速度があるので「大変だった」とも。

あるときは、ヨーロッパ人の捕虜を北京市から上海市へ送り届ける列車の護衛の任務に。

「日本は負けますよ」と泰然としている人ばかりだったとも。

父母と小生は幸いなことに敗戦時、北京市にいたため、昭和二一年三月、米軍の上陸用舟艇に載せられて佐世保港に引き揚げてくることができました。小生に記憶はまったくありません。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

花鳥風月と私

川本浩平

わたしは、これまで和菓子原料の製造と販売、乳業会社でボイラーと冷凍機の運転管理、呉服小売販売の仕事に携わってきました。それぞれ愛着のある会社でした。いずれの業種も世の中が平和であること、又消費生活が豊かなことが前提となる仕事で、いうなれば平和産業であります。

二〇〇〇年七月（会社の決算月）、六〇歳と一〇か月で定年退職をしました。五十代に定年後は「何か平和的な運動に」と漠然と考えていました。

退職後、「軍隊を持たない国コスタリカ」を紹介する映画の上映会があり、ツレと鑑賞しました。その時にいただ

いたチラシにあった「コスタリカ憲法」を今も手帳に挟んであります。

『コスタリカ憲法第一二条　恒久的制度としての軍隊は禁止する。公共秩序の監視と維持のために必要な警察力は保持する。大陸間協定により又は国防のためにのみ、軍隊を組織することが出来る。いずれの場合も文民権力に常に従属し、単独又は共同して、審議することも声明文を出すこともできない』とあります。

映画は人々の日常生活と約九〇〇種の野鳥をはじめ貴重な動植物の宝庫という緑豊かな自然が写し出された。

その時に出会った友人に誘われ非核の政府を求める石川の会へ入会、事務局で会計を手伝うことになりました。核廃絶の運動がどのようなものか全く理解していない自分でありました。それから一五年、会報「非核いしかわ」編集委員の一員として末席を汚しています。

甘く美味しいお菓子の話、低い温度を高い温度のところに放熱する不思議な冷却の話、日本の豊かな文化と世界に誇れる着物の話など語りたいことはたくさんありますが、又の機会に譲ります。

詩人会議かなざわ「独標」より

緑色の郵便受け

石川あい

雨また雨の日

このビラ
どうぞ
お読み下さい

チャイムを押しながら
顔の見えない人と対話する

ああ、後で読むから入れといて
要りません

留守宅も多い

私の父は戦地から
やせ細って帰り病死した
祖母はいつも涙を拭って
残された生命を生きていた
母はがむしゃらに働き
病に倒れた

戦争という
何やら分からぬ大きな雲に
覆いかぶせられたような幼い頃
拭い去ることが出来なかつた日々

戦争さえなかったら
戦争さえなかったら

ふと振り返ると
誰かが読んでる
一枚のビラ
緑色の郵便受け

《編集室より》

◎原水爆禁止国民平和大行進の協力要請のため、平和行進実行委員会メンバーに同行して、県内各自治体総務課を訪問し、「平和事業に関する自治体アンケート」をお願いしてきた。同アンケートは二〇一二年度から始め、四年連続となる。

従来の回答では「前年同様の対応」が多かったが、今年は「戦後、被爆七〇年」であり、節目の年に相応しく〝一歩踏み出す〟事業展開を強く要望してアンケート用紙を手渡した。

最初に訪問した白山市総務課では、今夏に平和首長会議に加盟し、長崎原爆資料館から被災時の資料や写真パネル等をお借りして七月一一日から二週間、「原爆被災展」を計画していることを披露いただいた。五月末締切のアンケート集約が楽しみである。集約結果は本紙次号に掲載し、ホームページにも公開する予定。（か）

◎統一地方選挙は記録的な低投票率で終わった。局地的な話ではなく全国どこでもこの傾向は顕著だった。この意味は何だろうか。一般的に言えば一番身近な議員を選ぶ選挙は、きめ細かな働きかけがあるから投票率が上がるのが普通であろう。にも拘らず投票に至らない理由の一つは、意中先がないというより主権者の迷いの表れではなかろうか。これまでの投票先が信頼を失い、かといって「ひょっとして…」と意識する先への投票をためらっている姿が見て取れる。この躊躇を超え、隔ての壁がなくなれば、日本の夜明けにつながろう。（中）

◎安倍政権の異常事態に怒っているのは私ばかりでない。地域の九条の会の仲間と新会員おさそい行動をした。在宅の方と話しをするとみなさん怒っていることがヒシヒシと伝わってくる。事情があって入会されない方も「戦争立法反対署名」は、さっと手を出し署名に応じてくれます。「アキラメ」の心が支配しそうになることもあるが、今こそ、安倍政権の権力の横暴に負けない勇気と行動が求められていることを教えられた。（平）

「被爆者が描いた体験画展」⑧

石川県原爆被災者友の会　中田喜重

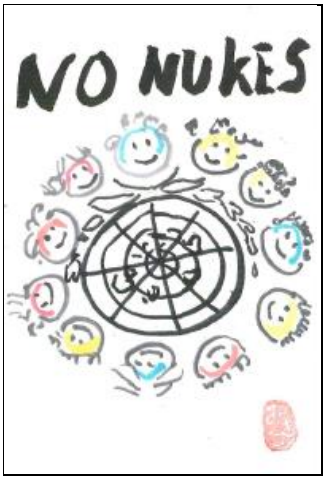
昭和 20 年 8 月 10 日、長崎市内にて、救援列車に乗るため、爆心地を通って道ノ尾に向う私と家族

長崎市勝山にて、被爆者を運ぶ勝山国民学校救援隊

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班

近松美喜子



長崎市大黒町にて、大炎のなか、逃げていく被爆者たち

≪非核平和・行事予定≫

月	日	曜	時	行事名	場所
5	27	水	12:50	戦争する国づくり stop！ 戦争立法反対！ 昼デモ	いしかわ四高記念公園
	30	土	14:00	志賀原発を廃炉に 訴訟原告団総会	石川県地場産業振興センター
			15:00	講演 2005年志賀原発2号機住民勝訴判決「井戸謙一元裁判官金沢で語る」	
	31	日	13:30	「NPT要請報告・懇談会」 非核の政府・石川の会主催	金沢市近江町交流プラザ4階
			15:30	非核の政府を求める石川の会第27回総会	同上
6	6	土	16:00	石川県平和委員会総会	金沢市近江町交流プラザ4階
	7	日	10:00	石川県母親大会（13：30～講演・雨宮処凛さん）	石川県女性センター
	7日（日）～12日（金）			2015年国民平和大行進県内能登路行進	実行委員会の日程表で確認を
	10	水	13:50	戦争する国づくり stop！ 戦争立法反対！ 昼デモ	いしかわ四高記念公園
			18:30	憲法改悪反対石川県実行委員会主催・県民集会	いしかわ四高記念公園
	13日（土）～24日（水）			2015年国民平和大行進日本海コース石川県内加賀路行進	実行委員会の日程表で確認を
	13	土	14時	原発を考える女性の会総会（記念講演・大島堅一さん）	ITビジネスプラザ武蔵6階ホール
	24	水	13:50	戦争する国づくり stop！ 戦争立法反対！ 昼デモ	いしかわ四高記念公園
	24日(水)～29日(月)			「写真が語る沖縄ー戦後70年と今」写真展	金沢大学サテライト・プラザ等
	27	土	13:30	ミニ講演会「沖縄の戦後70年」（森口豁さん×五十嵐正博さん）	金沢大学サテライト・プラザ
	27	土	13:30	石川憲法会議・時局講演会（講師・森英樹さん）	石川県教育会館3階ホール
	28	日	13:30	石川県社保協第20回総会（記念講演・岡田知弘さん）	金沢市近江町交流プラザ4階
	28	日	14:00	金沢紫金草合唱団15周年記念公演	石川県文教会館ホール
7	5	日	13:30	治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟石川県本部総会	金沢勤労者プラザ1階会議室
	8	水	13:50	戦争する国づくり stop！ 戦争立法反対！ 昼デモ	いしかわ四高記念公園
	11	土	14:00	石川革新懇総会と講演（沖縄革新懇代表）	労済会館
	12	日	11:00	九条の会北陸三県交流会（講演 小森陽一さん）	福井県教育センター
	22	水	13:50	戦争する国づくり stop！ 戦争立法反対！ 昼デモ	いしかわ四高記念公園
	26	日	13:00	「アオギリにたくして」上映会＆ピースライブ（中村里美さん）	石川県文教会館ホール
	＊毎週金曜日 18：30 どいね原発アピール行動 金沢駅東口 ＊祝日は休日としています				
	＊毎月6日、9日 12：00 核廃絶署名6・9行動 金沢市Mza前				